

授業科目名	社会福祉 I		担当教員名	北村 育子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分等	保育の本質・目的的理解に関する科目	
必修・選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)		授業方法/担当形態	講義 / 単独
開講学年/学期	2年 前期 (1-2期) / ※令和8年度は開講しません		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 地方公務員として保健と教育に関わる行政に従事した後、社会福祉士養成に携わってきた。同時に、社会福祉法人、NPO法人、家庭裁判所などで子ども・高齢者を含む家族支援を行ってきた。これらの経験を、授業に役立てている。
授業の概要及び全体目標	現代社会における社会福祉の意義や理念を理解し、多様化する福祉ニーズに対して社会福祉制度やサービスがどのように整えられているかを理解する。その上で、子どもや子育て家庭が直面するさまざまな生活問題を社会福祉の課題として捉え、当事者を支援するために社会福祉の相談援助がどのように実践されているか、その方法について学ぶ。あわせて、利用者の権利擁護や苦情解決の仕組みについても理解する。			
到達目標	1.現代社会における社会福祉の意義と社会福祉の歴史の変遷について説明できる 2.社会福祉における子ども家庭支援の視点について説明できる 3.社会福祉の制度や実施体系等について説明できる 4.社会福祉における相談援助について説明できる 5.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明できる 6.社会福祉の動向と課題について説明できる			
テキスト	『10訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治・杉山博昭 編集 みらい			
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業のなかで紹介しします。			
成績評価の方法	授業への取組姿勢：20% コメントシート提出とその内容による理解度・到達度の評価：80%			
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	授業のすすめ方、取組み方、等について初回に説明します。授業は、教科書にそってすすめます。授業の理解度と目標の到達度をコメントシートにより確認します。事前に教科書に目を通して授業ののぞむようにすることで、学習効果が高まります。学習支援や質問については、授業時間の前後、またメールなどを活用して適宜対応します。			
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	オリエンテーション：科目の概要と到達目標を確認する			1・2・3・4・5・6
第2回	保育と社会福祉：子どもたちを取り巻く環境としての日本社会の概況について知る			1・2・6
第3回	制度としての社会福祉：戦前・戦後の社会福祉ならびに保育の歴史と最近の動向について理解し、これからの保育について考える。			1・2・5・6
第4回	社会福祉の意味と考え方：社会福祉の意義について考えとともに、社会福祉の制度的な体系を理解する。			1・3・5・6
第5回	社会福祉の実施体制と財源：社会福祉を担う諸機関と社会福祉サービスの供給方法について理解し、あわせて財源確保について考える。			1・3・5・6
第6回	社会保障及び関連制度の概要：生存権保障としての社会保障の仕組みについて理解する			1・3・5・6
第7回	子どもと家族の福祉：少子高齢社会における保育需要の高まりについて理解し、次世代育成を担う専門職について考える。			2・3・5・6
第8回	障害のある人のための福祉：障害のとらえ方、障害者福祉制度の動向を学び、障害者福祉における保育士の役割について考える。			3・5・6
第9回	高齢者福祉：介護保険制度をはじめとする高齢者福祉制度の概要を理解する			3・5・6
第10回	地域福祉：誰もが安心して暮らせる地域づくり等について、地域福祉をキーワードとして考察する。			3・5・6
第11回	社会福祉の専門職と倫理：保育士をはじめとする社会福祉の専門職について、その種類と役割を理解する。			3・5・6
第12回	保育士とソーシャルワーク：ソーシャルワーク援助の基本を理解するとともに、保育士によるソーシャルワーク実践の必要性について考える。			4・5
第13回	利用者の権利擁護とサービスの質の確保：契約時代における利用者支援と権利擁護の仕組みについて理解し、援助者の権利や支援について考える。			3・4・5・6
第14回	諸外国の社会福祉：外国の福祉制度について学ぶことを通して、わが国の社会における有効な福祉援助のあり方について考察する。			1・3・6
第15回	科目のまとめと補足：科目全体を振り返り、科目の目標が達成できたかどうか検証し、必要な補足説明を行う。			1・2・3・4・5・6